



愛媛日産は「知っている」から「動ける」防災へ

—「災害が起きたら」ではなく、「災害が起きる前に、何ができるか」—

愛媛日産自動車は令和 8 年度愛媛県総合防災訓練に、防災士をはじめとする社員が参加しました。社員とその家族、お客様の安全を守り、災害発生時にも地域社会の一員として役割を果たすため、事業継続計画(BCP)の整備と地域との防災連携協定の締結及び防災教育・防災訓練に取り組んでいます。

訓練では、自治体や消防・警察など 116 機関の約 6,000 人が連携した大規模な救助訓練が行われたほか、電気自動車(EV)を活用した給電、防災用品、浄水設備、通信設備など、さまざまな防災技術・用品の紹介、また災害体験では土石流や豪雨の体感コーナーなど最新の防災状況を確認することができました。

今回の参加を通じて見てきたのは、「防災は特別な担当者だけが取り組むものではない」ということ。そして、愛媛日産だからこそできる「クルマと電気の力を地域防災に生かす」という新たな可能性です。



<写真① 愛媛県総合防災訓練に出展した愛媛日産ブース>

電気自動車「サクラ」から V2L(給電機器)を介して電気を取り出し、テレビモニターやサーキュレーターなどを動かす給電実演を行いました。EV が「移動するためのクルマ」だけではなく、停電時の電源として活用できることを来場者に紹介しました。太陽光発電や V2L、V2H などの電気の流れをパネルで紹介。太陽光で「つくる」、蓄電して「ためる」、EV などから「使う」という災害時の電力確保について説明しました。



<写真② 大規模な救助訓練の様子>

ヘリコプターや大型ドローン、重機などを駆使し、各関係機関が緊密に連携して行う、実践さながらの救助訓練を間近で見学しました。

気温 35℃を超える厳しい猛暑の中にあっても、参加された皆さまは一切気を緩めることなく、真剣な表情で一つひとつの動作に取り組まれていました。その姿からは、いざという時に一人でも多くの命を救うという強い使命感と、日頃から積み重ねている訓練の重みがひしひしと伝わってきました。

本番さながらの緊張感の中で、迅速かつ的確に連携していく姿に、深い感銘を受けました。

災害から地域の命と暮らしを守るため、炎天下で訓練に尽力される皆さまに、心から敬意を表するとともに、改めて感謝申し上げます。本当にお疲れさまでした。